こんな時だからこそ新聞を!!

都留高ニュース

ようこそ都留高校へ

発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月２丁目11-20
編集
都留高校同好会

新入生歓迎号

新型コロナウィルスの非常事態の中迎えた４月。今年も満開となった桜が新緑へと変わり始めました。いよいよ進級・入学の時期です。新たな思いを胸に今年も頑張っていきましょう♪

４月１０日配布しようとした新聞です。内容等、ご容赦ください。

昨年の若鶴祭（仮装コンテスト）の様子

昨年の体育祭（騎馬戦）の様子

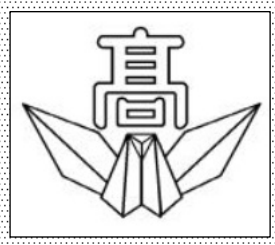
新一年生の皆さん入学おめでとうございます。校内新聞「都留高ニュース」です。都留高ニュースは生徒自身が作る学校内外の情報を発信する新聞です。今年もこの新聞を通して都留高校について少しでも知って興味を持っていただければ嬉しいです！

都留高校の秘密（新入生に向けて）

都留高ニュースではこれまで都留高校の秘密を記事にしてきました。それを新入生のみなさんに紹介します。（再再掲）

都留高校の校章について

都留高生全員がつけているこの校章。それには深い歴史がありました。デザインは当時の美術部員の応募によるものでした。意味としては「新制高校の『高』の下にそれを支えるように一羽の折り鶴」を配したものです。



都留高校の校章

都留高校の校歌について

行事ごとに歌われる校歌。校歌の歌詞は文学博士・金子彦三郎氏作曲は国立音楽大学教授・小松清氏に依頼し長い伝統に培われた剛健不抜の精神と新しい時代広い世界に生きる若鶴の気概を謳ったものです。

都留高校の校訓について

校訓としての（五条訓）では戦後の民主化の波の中でその使命を終えました。しかし、その精神は新制高校の中でも生かされ、その後校風として定着したのが「質実剛健」の精神だったようです。のちに改めて（五条訓）を見直した三枝満校長先生は「自学進取」を新たな校訓とすることに決めました。

ちゃらんぽらんの鐘について

ちゃらんぽらんの鐘は一年と三年の昇降口にあります。鐘の下にある石碑にはこのように書いてあります。「この鐘は都留中学校創立当初から始業終了の時刻を告げてきたたれいうとなく鐘のメロディーから‘ちゃらんぽらんの鐘’と呼ばれ朝夕親しまれた昭和四年卒業生一同が卒業五〇年記念としてこれをたてた。」

謎の彫刻について

体育館とハンドボールコートの間にある彫刻は「若鶴の飛翔」という名前を持っています。この彫像は平成九年三月一日に平成五、六、七、八年の卒業生の紹介でこの都留高校に建てられました。鼻をつまんでいるように見えますが、実際は空を見上げているとのことです。

選択教室の謎

選択教室の順番がとんでいる理由は、生徒数と選択教室の数が反比例しているからでした。最大七クラスまでありましたが、生徒数の減少により空き教室が増え、空き教室ができた順にアルファベットが振り分けられていったため、このようになりました。

グラウンドの土の違いについて

柏木先生によると野球部の黒い土は『黒土』という柔らかい土だそうです。土が硬いと野球ボールがバウンドするためそれを防ぐ緩衝材のような役割をしてくれます。サッカー部の土は硬く、野球をするには向かず安全性のために『黒土』を使っているとのことです。

大月にあるのに都留高校なのはなぜか？

都留高校の最も根源的な不思議、都留高校はなぜ大月にあるのに都留高校なのかについて小俣前事務長にお話をお聞きしました。

「都留高校は明治33（１９００）年に山梨県中学校都留分校として南都留郡谷村町（現都留市）に建てられました。その後明治35年（１９０２年）に北都留郡大月（現大月市）に移転されました。（都留高校の名の）理由としては**南北都留両郡の中央に設置されたから都留という名前を使用した**のではといわれています。」

今年度都留高校行事紹介

４月
~~大学式・新入生オリエンテーション~~
５月
ゴールデンウィーク
~~総体~~
６月
若鶴祭？？
７月
第１回定期試験
~~野球応援~~
８月
夏休み
９月
体育祭
第２回定期試験
10月
新人戦
11月
第３回定期試験
12月
修学旅行（二年生）
令和３年（２０２１年）
１月
スキー教室（一年生）
共通テスト（三年生）
２月
第４回定期試験
３月
卒業式
都留探究プロジェクト全体会
球技大会
終業式・離任式

第70回卒業式

今年卒業された先輩方は全日制課程２３４名、定時制課程６名の合計２４０名でした。
先輩方は質の高い文武両道を続けられ左記のように多くの外郭団体表彰を受賞しています。また全国・関東大会出場選手等特別表彰者６８名。生徒会功労賞受賞者１７名でした。
今年の卒業式は新型コロナウィルスの感染予防のため１・２年次生の式への参加は取りやめ、来賓の祝辞などを減らすなど時間の短縮も行われたものだったが、平井生徒会長の答辞の際などには卒業生からすすり泣く声も聞かれ、卒業式ができて良かったと実感できるものとなった

外郭団体賞受賞者

（数字はクラス）

☆若鶴賞（教育後援会会長賞）
４平井駿之介

卓球　囲碁将棋
５岩崎　世那

水泳
☆やまなみ文化賞（全日制課程）
４木下　夢実

剣道　新聞
☆外郭団体賞受賞者
（全日制課程）　29件（40名）

◇山梨県高等学校体育連盟優秀選手表彰
５岩崎　世那

◇山梨県高等学校文化連盟賞
４阿竹花菜女

◇山梨県高等学校教育研究会生徒会指導部会会長賞
４平井駿之介

◇山梨県高等学校野球連盟会長賞
２勝俣　尊斗

◇山梨県高体連バスケットボール専門部功労賞
６小俣　凌
４杉本季来奈

◇山梨県高体連バレーボール専門部功労表彰
１池川まとい

◇山梨県ハンドボール協会会長賞
６窪松　諒馬
５太田　成美

◇山梨県バドミントン協会功労賞
１荻原　大晴
１柴崎　里菜

◇山梨県剣道連盟会長賞
４佐藤　壮真
４木下　夢実

◇山梨県空手道連盟会長賞
３福田　優香

◇山梨県山岳連盟会長賞
４竹谷　慎二

◇山梨県卓球協会会長賞
４清水　創太
４平井駿之介

◇山梨県高体連水泳専門部功労賞
１石井　乃愛
２鈴木　仁
２新井ひかり
２藤本　菜々
３村松　滉太
５岩崎　世那
５古屋　尚章

◇西関東吹奏楽連盟表彰
２桐谷　美里
２保坂　萌香

◇山梨県高文連美術・工芸専門部長賞
４鈴木　海遥

◇山梨県高等学校文化連盟茶道部会部会長賞
４阿竹花菜女

◇山梨県高等学校書道連盟賞
５渡部　知恵

◇関東合唱連盟理事長賞
３三森　環

◇山梨県合唱連盟理事長賞
３河﨑　七海

◇山梨県高等学校写真連盟会長賞
１小田莉里花

◇山梨県高等学校文化連盟将棋専門部功労賞
６齊藤　祐吾

◇山梨県囲碁連盟会長賞
３堀江　勇斗

◇山梨県高等学校文化連盟日本音楽部部長賞
４加藤あかり

◇山梨県高等学校理科部会会長賞
５藤木　柊成

◇山梨県高等学校新聞専門部部会長賞
４阿竹花菜女

◇全国高等学校家庭クラブ連盟功労者賞
４阿竹花菜女

◇山梨県高等学校応援連盟会長賞
５石井　愛士

◇山梨県高校保健会優良生徒表彰
４小林　晃貴

～卒業生に聞く～

元生徒会長　**平井駿之介さん**

直接の取材は自粛等でできないので、今回はＬＩＮＥを通じて、新聞同好会生徒が卒業生に取材をしました（3月26日取材）。今回は元生徒会長の平井駿之介さんにインタビューしたものを編集して記事として掲載します。平井さんは卓球部では個人・団体とも関東大会に出場・囲碁将棋部でも全国大会に出場しました。また、受験では一橋大学、早稲田、慶応大学の各法学部に合格しました。

1、若鶴賞（学業および部活動等において顕著な成績を収めた生徒を卒業時に表彰）を受賞されたということで、平井さんなりの文武両道のコツを教えてください。

ー勉強も部活も本気でやることが大前提です。どちらかがどちらかの邪魔になることはありません。互いに関係しており、どちらかを疎かにすればもう一つの伸びも期待できません。そう思っていれば勉強、部活をやる意味を感じられると思います。

その上で最も大事なのは自発的に行なっているかどうかです。常に知識、技術を自分で探し、吸収します。そうして得たものはなかなか忘れません。

2、勉強はどのようにしていましたか？（一日平均の勉強時間　苦手科目の勉強方法など）

ー勉強は時間ではなく何をやるか量を決めて行っていました。時間だけを設定すると内容が伴ってなくても、やった気になってしまうので。志望校の過去問をみて難易度の高い科目、特殊な形式の科目を確認してその科目に時間を多く割きました。勉強は量というよりは同じ知識に何回触れたかが重要です。回数が多ければ長期記憶として残り、少なければ短期記憶にしかならず抜けていきます。だから、同じ知識を何回も見て頭に残させました。

3、将来の目標があれば教えてください。

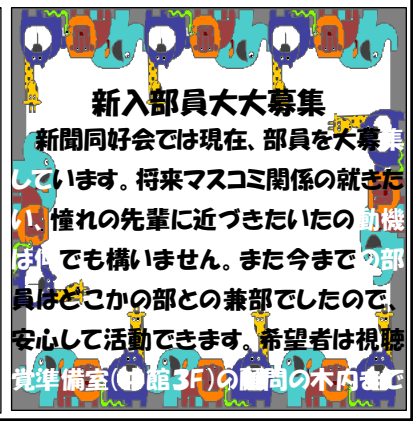
ー具体的には決めてませんが、法律関係の仕事に就きたいと思っています。

4、最後に後輩にアドバイスをお願いします

ー勉強はほとんど全員スタートが同じです。差がつくとすれば素直さ、目標への意識、人間性など、能力に関係のない部分です。それが身につくのは部活や勉強以外の活動、普段の物事に対する姿勢です。

全てのことは自分に返ってきて大きなアドバンテージになります。色んなことに本気で取り組んでいきましょう！頑張ってください！

卒業式で答辞を読む平井さん（3月１日）

自学進取

新型コロナウィルスが世界を一変させてしまっている。コロナウイルスのコロナはの名称はラテン語のcorona（コロナ）およびギリシャ語の王冠または光冠（丸い光の輪）、花冠を意味するコロネに由来するという。英語のクラウンの語源ともいうから皮肉だ。さてこれまでの人類は感染症との闘いだとよく言われるが、現実のものとなると本当に恐ろしい。中世ヨーロッパで流行した黒死病（ペスト）の風刺画ではまるで死神にとりつかれた人々が、たとえ王でも乞食でも等しく死へ誘う様子が恐ろしい。当時の修道士たちは「メメントモリ～死を想え～」と説いた。今この瞬間を大切に生きることだけが、当時の人々にできる最大の関心ごとだったのだろう。もしかしたら多くの高校生にとって長く退屈な時間の繰り返しかもしれない。しかし、今この瞬間にもできる多くのことがきっとあるはずである。それが何なのか突き詰めて欲しい。ジャレド・ダイヤモンド著『銃・病原菌・鉄』（草思社文庫）にもあるように病気が人類の歴史を大きく変えてきたことも事実だ。これから高校１年生にとっての３年間はまさに激変する世界を目の当たりにするかもしれない。